



アジアにおける温室効果ガスインベントリ整備に関するワークショップ° 第18回会合（WGIA18）の結果について

令和3年度環境省温室効果ガス排出量算定方法検討会（第1回）
令和4年2月2日（水）



WGIAとは

環境省と国立環境研究所が、アジア地域諸国の温室効果ガスインベントリの作成能力向上と、地域の協力関係の促進を目的に、2003（平成15）年度から毎年開催しているワークショップ。

※ WGIA : Workshop on Greenhouse Gas Inventories in Asiaの略

WGIA18の開催

2021（令和3）年度は、新型コロナウイルス感染症の世界的な発生状況を踏まえ、感染拡大防止の観点から、WGIAメンバー国での現地開催を見送り、7月8日（木）～14日（水）（うち平日の5日間）の日程でオンラインで開催した。

■ 参加者

ブータン、ブルネイ、カンボジア、中国、インド、インドネシア、日本、ラオス、マレーシア、モンゴル、ミャンマー、フィリピン、シンガポール、タイ、ベトナムや米国環境保護庁、国際機関等の政府関係者及び研究者（総計約100名）

■ 主な議題

- 温室効果ガスインベントリの各分野に関する相互学習
- 国別報告書（NC）、隔年更新報告書（BUR）における温室効果ガスインベントリの進捗について
- 2006年IPCCガイドラインへの移行及びインベントリ編纂を促進するリソースについて
- パリ協定における透明性枠組みのための国家インベントリについて

WGIA18の成果

- 相互学習において、相手国の方法論に加えデータ収集や品質管理・品質保証（QA/QC）を含む国内体制等について学習し、実施国のインベントリ改善につながる成果が得られた。
- 活動量データの取得、不確実性分析や国独自の排出係数の開発、QA/QC及び国内体制の確立といった課題が依然として残っている中、パリ協定において強化される透明性枠組みでの報告要件に係る課題が確認された。
- ガイドライン移行を乗り越えた経験を共有し、国内体制を整え移行準備を進めることの重要性について認識を共有した。
- パリ協定の下でのインベントリ作成に向けて、早い段階から計画的に準備することの重要性が確認された。
- 不足している時系列データは、IPCCガイドラインで示されている補完手法などを用いて補い、品質を確保する重要性が指摘された。
- BTRの作成準備に当たっては、様々な国際的リソースや能力構築の機会を活用することが重要であることが確認された。



WGIA18（オンライン開催）全体会議参加者

今後のWGIAについて

今後、各国がインベントリの精度をより高められるようWGIAを継続、発展させていく方向性が確認された。次回の会合については、各メンバー国における新型コロナウイルス感染症の収束状況等を踏まえた上で、開催地、開催時期及び開催方法等を検討・調整していく。